

みどりと  
技術だより

第 1 回九州森林倶楽部  
の久住高原



大分県久住高原扇ヶ鼻

新緑とミヤマキリシマの  
久住高原を訪ねて

5 月 31 日、平成 21 年度第 1 回目の九州森林倶楽部イベント「～新緑とミヤマキリシマの久住高原を訪ねて～」と題して、大分県久住高原おびしがはな扇ヶ鼻を訪れました。今回からは会員制ではなく、各イベント毎の募集形式となったところ、元会員の方々も含め、19 名の方が参加されました。

今回目指したのは、九重連山の西に位置する標高 1698 m の扇ヶ鼻。久住山の登山コースの途中にありながらも、様々な高山植物を見かけることができ、頂上から見下ろす久住と瀬の本の 2 つの高原の眺望は、筆舌では表現できない雄大そのものです。

当日は天候には恵まれたもののやや春霞。午前 7 時 30 分に大型バスで森林管理局を出発。やまなみハイウェイを通り、阿蘇外輪からの眺めはすでに登山している様な気分くつけやまにさせてくれました。午前 10 時には牧ノ戸登山口に到着し、三つの班に分かれて登山を開始しました。途中の沓掛山までのコース

は比較的険しい道のりでしたが、イワカガミやツクシドウダン、コケモモなどの高山植物がかわいらしい花を咲かせ、参加者の目を楽しませてくれました。また、安樂会長をはじめ九州森林インストラクター会の方々が途中でこれらの植物を詳しく説明、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けカメラに収めていました。

扇ヶ鼻の山頂に着く頃には霧もすっかりはれ、ミヤマキリシマで彩られた久住連山の山脈がハッキリと姿を現すと、参加者の方々は歓声を上げていました。扇ヶ鼻では記念写真を撮り、雄大な景色やミヤマキリシマを眺め



ミヤマキリシマ

扇ヶ鼻より久住連山を望む



植物探索

ながら昼食をとりました。山頂はさすがに風が強く、肌寒く感じる程だったため昼食後は早めに下山。

下山時は、登りとはまた違った景色を見ることができました。特に登山時は霧で良く見渡すことのできなかった沓掛山からの眺めは素晴らしく、参加者は疲れた足を休ませながら見入っていました。参加者の方々からは、

「植物の詳しい説明を聞くことができました」「久しぶりに山に登りリフレッシュできました」等の感想が寄せられ、第1回の九州森林倶楽部は無事に終了することができました。



仲よし三人

久住高原に咲くかわいらしい花達



イワカガミ

ハルシンドウ

ミツバツチグリ

ニガイチゴ

マイヅルウ

ウスノギ

コケモモ

ツボスミレ

ツクシドウタン

# 第13回 ボランティア林業

# ふれあいの森で 快い汗

食とみどり、水を守る熊本県民会議

平成21年5月16日、熊本森林管理署吉無田国有林において、「食とみどり、水を守る熊本県民会議（議長：片野學東海大学（阿蘇キャンパス）教授）」主催の「第13回ふれあいの森ボランティア林業」が実施され、同会議の会員や家族、局署の職員等約80名が間伐作業に快い汗を流しました。

吉無田国有林は、旧細川藩有林の高齢級スギ林が今も残り、林内には県



佐々木俊和副議長

内でも有名な吉無田水源があります。活動は同国有林のヒノキ人工林をボ



枝打をする参加者

ランティアで手入れしていこうと、1994年にスタート。2001年には、署と同会議が同国有林約14㍊をふれあいの森として協定を結び、間伐や歩道整備、看板設置、記念植樹などに取り組んでいます。開会式では佐々木俊和副議長が「この活動は、地球温暖化や環境問題を考える先駆けとして取り組んできた。温暖化や環境問題は今も悪化の一途。今後も初心を忘れずこのような活動を続けることが大事」とあいさつ。局署の職員による安全指導を受け早速作業を開始。初回から参加している男性は、「以前間伐した区域の林が見事に立派になっている」と感心しきり。また、幼い子どもが母親と一緒に鋸を引く姿も見受けられ、家庭や学校では経験し得ない作業に汗を流していました。



ボクも！



ワタチも！

作業の後には、子ども達を対象に紙芝居と木工クラフト作り



木工クラフト作り

実施。また、昼食時には、同会議からイノシシ汁が振る舞われ、参加者は思い思いの場所で手作りの弁当に舌鼓。普段、谷川のせせらぎや鳥の声しか聞こえない山間に、子ども達の賑やかな声が響きわたりました。



上手でしょう



紙芝居

閉会后、自分で作った木工クラフトを手にした子ども達のご満悦の表情で帰路に。子ども達にとっては、森林の魅力に気づいた一日になったのではないのでしょうか。





はじめまして  
4月1日付け異動その2



指導普及課に着任し、早くも2ヶ月が過ぎ、監物台樹木園や各地で開催されるイベントの多さと、自分自身、指導普及課の業務に携わる機会が少なかったことに改めて気づいたところです。

自然環境や生物多様性の高まりの中、林業技術の開発、野生動植物の保護管理、森林環境教育など幅広い業務を的確に実施するため、森林について多くの国民の皆さんに理解していただき、次世代へ国有林を確実に引き継ぐことができるよう各署、森林技術センター、西表森林環境保全ふれあいセンターと連携を取りながら業務を進めたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

企画係長 古島 勝美

今年4月、九州森林管理局に採用となりました。指導普及課の業務は採用後ぜひ関わってみたいと思っていた業務の一つなので、配属されてとても嬉しく思っています。ですがその反面、まだ何も分からない自分が一般の方々に森林や林業を伝えることができるのかと不安も入り交じっています。未に慣れないことが多いですが、その分新鮮な出来事が多く、課の皆さんからとても良くしてもらっているのが楽しく仕事をさせて頂いています。仕事の内容を覚え、できることを増やしながらい指導普及課の一員としての役割が少しでも果たせるよう、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。 緑の普及係 古川 洸太郎

旬の花



チシャノキ  
監物台樹木園

行事予定

- ★ 6月27日  
「屋久島世界遺産」研究フォーラム  
屋久島町安房総合センター
- ★ 6月28日  
第1回実践・公開講座「葉の構造」  
監物台樹木園
- ★ 7月11日～13日  
第2回九州森林倶楽部（特別企画）  
鹿児島県奄美市
- ★ 7月26日  
第2回実践・公開講座「絵手紙」  
監物台樹木園

編集後記

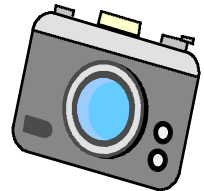
今回の森林倶楽部に担当者として同行し、「広報九州」や「みどりと技術だより」に使う写真を撮影してきた。けが人も出ることなく、天気にも恵まれ、多くの高山植物や参加者の笑顔が撮影できたことで任務は無事果たせたと考えている。

なお、今回の功労者は、3月に課で購入した最新型のコンパクトカメラ（13万5千画素）ではないかと考えている。技術の無さを補うに十分な性能で、「数打ちゃ当たる」方式で撮りまくる私を助けてくれた。

ところで、7月に実施する森林生態系研修（昆虫）においては、研修内容に昆虫の写真撮影技法を取り入れる予定である。

これからもっと写真の腕を磨いて、九州森林管理局の宣伝マンとして、イベント参加者の楽しそうな姿、熱心に教える講師の姿、国有林の素晴らしさ、局署職員のかっこよさなどを写真を通じて多くの方に伝えることができたと思う次第である。

緑の普及係長 堂園 理一郎



伝えたい木の文化、残したい美しい森  
「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」



紙一枚からできる地球への思いやり

～九州森林管理局では地球温暖化防止のため、再生可能な間伐材製品利用を推進しています～